

令和6年度 第2回こまきこども未来館講座運営会議  
会議要旨

日 時	令和7年2月5日（水）午後6時～午後7時20分
場 所	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ3階）
出 席 者	<p>【委員】7名（※敬称略） 玉置崇、長江美津子、植松浩二郎、伊藤尚子、渡邊紫麻、 采女隆一、宇野章子</p> <p>【事務局】9名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、 係員、NPO 法人10人村（4名）</p> <p>【傍聴者】0名</p>
会議資料	<p>次第</p> <p>評価シート改定案</p> <p>資料 1-1（受付業務及び講座開催業務に対する実施方針）</p> <p>資料 1-2（2025年度実施計画）</p> <p>資料 2（アンケート調査結果）</p> <p>資料 3（講座運営会議 補足資料）</p> <p>資料 4（心理的安全性アンケート結果レポート）</p>
会議内容	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）評価シートの改定（案）について</p> <p>（2）令和6年度講座等実施報告について</p> <p>（3）令和7年度講座等実施計画（案）について</p>
会議要旨	<p>1 <u>こども未来部長あいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月にオープンからの累計の来館者数が100万人を超えた。当日は記念セレモニーを開催し、多くのこどもたちで賑わった。年間の来館者数も年々増加傾向にあり、今年度も昨年度に引き続き目標の30万人達成が確実な状況である。</li> <li>・来館者のアンケートでは99%の方に「未来館は楽しい」「また来館したい」と回答を得ており、未来館のスタッフを中心に、体験ひろばにおける講座やワークショップ、交流CAMP等、関わっていただいている多くの未来館サポーターのおかげだと感じる。</li> <li>・本日の会議は、今年度取り組みの振り返りと来年度の事業計画案に対し、より一層来館者に喜んでもらえる未来館となるよう、ご意見をいただきたい。</li> </ul> <p>2 <u>議事</u></p> <p><u>（1）評価シートの改定（案）について</u></p> <p>※事務局より評価シート改定案の説明</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度児童館ガイドラインが改正されたこと、第1回の会議において委員の皆様から意見をいただいたことに基づき、改定案を作成した。</li> <li>・主な変更点は「評価基準」「自己評価理由」「評価のポイント（2か所）」</li> </ul> <p>《質疑応答》</p>
玉置会長	10 人村もこの評価ポイントを理解したうえで取り組むことになるが問題ないか。
事務局 (10 人村)	児童館ガイドラインの改正にも合わせており、我々も未来館において叶えなくてはならない目標であると考えているので問題ない。
植松委員	未来館の講座運営についての評価シートとして、講座に対しての評価項目があっても良いのではないか。今は児童館についての評価をより具体的にただけになっているように感じる。
事務局	<p>ご指摘の通り、講座の中身についての評価はわかりづらくなっている。講座を実施するうえで気を付ける点や、子どもたちの反応などを項目として追加したい。当会議後、改定したものをお送りするので改めてご意見をいただきたい。今年度の会議は今回が最後となるため、いただいたご意見をもとに、最終的には玉置会長と調整のうえ、承認とさせていただきたい。</p> <p><u>(2) 令和6年度講座等実施報告について</u></p> <p><u>(3) 令和7年度講座等実施計画（案）について</u></p> <p>※事務局より資料1～4の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3ヶ年計画において、今年度は子ども一人一人の心理的安全性を高めるよう取り組んだ一方で、職員の心理的安全性の確保も大切にしたい。今後も職員に留まらず保護者やサポーターの安全性も高めて、子どもの挑戦へ繋げていけたらと考えている。また、主に来年度に計画していたファシリテーターの養成は、今年度から子ども家庭庁実施の『子ども若者★いけんぷらす』に職員がファシリテーターとして登録し、参加している。</li> <li>・アンケート結果において、小学生の「今後未来館でやってみたいこと」への回答は「プログラミング」「からだをつかうこと」が多くなっている。「プログラミング」は既に講座を開催しているが、人気があり希望者全員が参加できないこともある状況。「からだをつかうこと」については今後講座として取り組みたい。 中高生の未来館へ期待することとしては回答者の半数以上が「Wi-Fi」と回答。現在、子どもたちの意見も聴きながら安全に使ってもらえる方法を市と検討中。参加したいワークショップは「ものづくり」が最多となって</li> </ul>

	<p>いる。開催しているものの、中高生に認知されていない面もあるため今後は周知の方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近頃は、交流・体験 CAMP など、企業や団体側からも「ぜひさせてほしい」と声をいただくことが増えてきた。</li> <li>・連続講座『デジタル隊』に参加したこどもの「日常的な活動をしたい」という声から、自分たち一人ではなくどうしたらみんなが楽しく遊べるのか、こどもたちがこどもたちへ教える自主的なこども参画『マイクラ部』の活動へと繋がっているという事例もある。</li> <li>・来年度は新たに、市内小学校で実施の『夢☆チャレンジ科』の授業も一部協力する予定。担当の先生と協力し、講座内容やプロタイプマップの使い方を検討中。その他、高校生の社会参画プロジェクトや、印刷会社やデザイナーと協力し商品開発から販売までに挑戦する事業などを計画中。</li> <li>・職員向けに心理的安全性アンケートを実施。リーダーとの関係や組織全体の雰囲気はまだ十分とはいえない。改善していく。</li> </ul> <p>《質疑応答》</p>
<p>采女委員</p>	<p>(『夢☆チャレンジ科』について補足説明)</p> <p>令和7年度から全国の小中学校の『総合的な学習の時間』を拡充することが決まっている。小牧市では『夢☆チャレンジ科』としてこどもたち一人ひとりがやりたいこと、やってみたいこと、興味があることに自ら探究的に関わっていく時間としていく。先生から教えられたことを単に習得するだけでなく、自ら課題意識を持って取り組むことで、学校を卒業しても探究的な思考を持ってやっていけるような願いを込めている。こども自身が設定したテーマの探究のために情報収集やまとめ、発表をし、次へ繋げる形で進めていきたく、その探究のパートナーとして様々な分野の企業や団体、学校との連携を進めているところである。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>活動には学校の先生方のサポートもあるのか。また、先生方への市からのサポートなどはあるのか。</p>
<p>采女委員</p>	<p>探究をしていくことに答えはないと考えており、指導者が教えて覚えなさいではなく、ゴールに向かうためにどのルートを通るのかもこどもたちと一緒に考えていくという体制をとっている。教育委員会としても各学校に指導主事が担当につき、より効果的な探究学習ができるようサポートをしていく予定であり、来年度のスタートへ向けて議論を重ねている。先行で開始している学校があるが、最初は戸惑いながらも、進めていく中でこどもたちが変わってきた、目が輝いてきたという声もある。ご家庭や地域も含めてみんなでこどもたちを育てていきたいと考えている。</p>

事務局	『夢☆チャレンジ科』が始まるにあたって困るこどももたくさん出てくると思う。好きなことはなんなのか、「好き」を選べない子を未来館へ送ってくださいと伝えている。未来館での様々な体験を通して自分の好きをみつけるきっかけになれば良いと考えている。
伊藤委員	ファシリテーターとはどういう存在か。アドバイザーのようなものか。
事務局	10 人村としては、こどもたちと一緒にものごとを進めていく際や、探究したいことを一緒に発見していく際に答えを与える存在ではなく、自立・自走して気付けるよう、環境や状況を整える存在だと考えている。「こうしたら良いよ」とアドバイスをすることは簡単だが、最終的にこども自身がどうしたら良いのか考えるときに「こういう場合、こういう場合があるね、他に何かあるかな」と問いかけて一緒に考えていくようにしている。
長江委員	未来館に来るのが特定の子に限られていたのが、幅が広がって多くの子が関わられるようになって良いなと感じた。探究という言葉もでてきたが、小学生から始まるのではなく、乳幼児期の心の安心や安全から始まり、様々な体験を通し、大人の投げかけによってもまた深まる。もっと幼児自身が選択して遊べるような講座もあればと思う。また、幼少期に体をたくさん動かして楽しい経験をした人は50・60代になっても体を動かすことが苦にならないというデータもある。自宅などにおいての機会が減っていることから、体を動かす楽しさや喜びといった経験もさせてあげてもらえると嬉しい。
事務局	こども家庭庁の『はじめの100か月の育ちビジョン』においても安心と挑戦の循環を通してこどものウェルビーイングを高めることが大切とされている。講座の内容にも反映していきたい。
宇野委員	企業など多くの繋がりがあって良いと感じた。来年度の職員・組織体制に社会教育士増員とあるが、社会教育士は未来館にどのような影響を与えるのか。
事務局	学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割を果たす専門家。地域活動の支援や、社会参画を促進するような講座やイベントの質を高めたいと考えている。
渡邊委員	『夢☆チャレンジ科』について、こどもたちのこれからの人生に必要だと思う。先生方も探り探りとのことだが、一緒に考えるということでそれも良いと感じる。
植松委員	3ヶ年計画において今年度は「居場所としてのつながり」「こども参画へのつながり」の年とされているが、実現できたのか。アンケートなどのデータがあるとより説得力があるのではないか。

事務局	<p>現状アンケートはとれていないが、「居場所としてのつながり」は中高生の居場所づくりをメインに子どもたちの意見を聴きながら進めている。交流ひろばの利用者数は増加しており、活用方法も多様になっているので居場所としてのつながりができているのではと感じている。子ども参画についても『こまき冒険スライム村』など意見を言っても良いということを実感させられていると思う。</p> <p><b>【議事(1)(2)(3) ⇒事務局案で承認】</b></p>
-----	---